安全データシート

1.　製品及び会社情報

製品名	：ランデックスコート　ＷＳプライマー２００
SDS 整理番号	：ＬＣ－００３
会社名	：大日技研工業株式会社
住所	：東京都中央区日本橋人形町 2-14-14
担当部門	：埼玉工場　技術部
電話番号	：048-812-8208
FAX 番号	：048-812-8248
メールアドレス	：dng-s@dainichi-g.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	：吸水防止材

2.　危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体	：区分３

健康に対する有害性

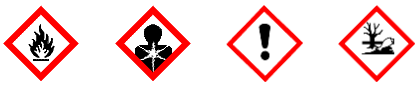
皮膚腐食性/刺激性	：区分２
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	：区分２
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：区分３（気道刺激性、麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：区分２（肝臓、精巣）
誤えん有害性	：区分１

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）	：区分１
水生環境有害性 長期（慢性）	：区分１

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語　危険

危険有害性情報

- 引火性の液体及び蒸気
- 皮膚刺激
- 強い眼刺激
- 呼吸器への刺激のおそれ
- 眠気又はめまいのおそれ
- 長期にわたる又は反復ばく露による肝臓、精巣の障害のおそれ
- 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
- 水生生物に非常に強い毒性
- 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性
- 有機溶剤中毒を起こすおそれ

注意書き

安全対策

- 医学的な助言が必要な時には、製品容器やラベルを持っていくこと。
- 子供の手の届かないところに置くこと。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 容器を密閉しておくこと。
- 容器を接地しアースを取ること。
- 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/聴覚保護具を着用すること。

応急措置

- 火災の場合、適切な消火剤（炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、霧状強化液）を使用して、消火すること。
- 気分が悪い時、吸入又は皮膚への付着がある場合:　直ちに医師に連絡すること。
- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚（又は髪）に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
- 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

保管

・　密閉容器に保管すること。
・　換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

廃棄
・　内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。
・　特別管理産業廃棄物に該当するため、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託すること。

ホルムアルデヒド放散等級　F ☆☆☆☆

3.　組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　：混合物

成分名	CAS No.	濃度(wt%) *1	PRTR 法　*2				労安法 通知物質
			令和 5 年届出		令和 6 年以降届出		
			政令番号	種別	管理番号	種別	
ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ等　*3	–	90～100					該当

*1　濃度は原料組成情報より計算した代表値です。実際の濃度を保証するものでは有りません。
*2　2023 年（令和 5 年）4 月の PRTR 届出には政令番号、2024 年（令和 6 年）4 月以降は管理番号を使用して下さい。
*3　石油ﾅﾌｻ、石油留分等を含みます。ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ﾄﾘﾒﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ｸﾒﾝ、ﾉﾅﾝ等の通知物質は含みません。

4.　応急措置

吸入した場合
・　蒸気、ガスなどを吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気が新鮮な場所に移し、呼吸しやすい場所で休息させる。
・　症状が改善しない場合は、医師に連絡すること。

皮膚又は髪に付着した場合
・　付着物を布にて素早く拭き取ること。
・　大量の水又はシャワー及び石鹸又は皮膚用の洗剤を使用して充分に洗い落とす。
・　溶剤、シンナーは使用しないこと。
・　外観に変化が見られたり、刺激・痛みが有る場合、気分が悪い時には医師の診察/手当をうけること。

眼に入った場合
・　水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
・　まぶたの裏まで完全に洗うこと。
・　直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合
・　誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
・　嘔吐物は飲み込ませないこと。
・　医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5.　火災時の措置

適切な消火剤　：　炭酸ガス、泡、粉末、乾燥砂、霧状強化液
使ってはならない消火剤　：　棒状(高圧)水、棒状強化液

特有の消火方法
・　適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用すること。
・　安全に対処できるのであれば可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。
・　指定の消火剤を使用すること。
・　高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却すること。
・　消火活動は風上から行うこと。
・　周辺火災に対応して、消火活動を行うこと。

6.　漏出時の措置

人体に対する注意事項・保護具及び緊急時措置
・　作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用すること。
・　屋内では換気をしっかり行うこと。
・　屋外の場合は、できるだけ風上から作業を行うこと。
・　周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止すること。
・　可燃性であり、燃焼する危険性があるので火気には注意すること。
・　付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を速く取り除くこと。
・　着火した場合に備えて、適切な消火器を準備すること。
・　水をかけてはいけない。

環境に対する注意事項
・　河川への排出などにより、環境への影響を起こさない様に注意すること。

封じ込め及び浄化方法及び機材
・　漏出物は密閉できる容器に回収し安全な場所に移すこと。

- 付着物、廃棄物などは関係法規に基づいて処置すること。
- 衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収すること。
- 乾燥砂、土、その他不燃性のものに吸収させて回収する。大量の漏出には盛土で囲って漏出を防止すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意

- 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- 容器を密閉しておくこと。
- 容器を接地しアースをとること。
- 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 静電気放電に対する措置を講ずること。
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/聴覚保護具等を着用すること。
- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- 取扱後は手と顔をよく洗うこと。
- この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- 環境への放出を避けること。

保管上の注意

- 密閉容器に保管すること。
- 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと 。
- 火気、熱源から遠ざけて保管すること。
- 盗難防止のため施錠保管すること。
- 子供の手の届かないところに保管すること。
- 漏れ、あふれ、飛散しないように必要な措置を講ずること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

管理物質	労安法	日本産業衛生学会	アメリカ合衆国産業衛生専門官会議	
	管理濃度	許容濃度	ACGIH　TLV 許容濃度値	skin
ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ等			100ppm	

設備対策

- 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器等を使用すること。
- 排気装置を付けて蒸気が滞留しないようにすること。
- 輸送、汲み取り、撹拌等の装置はアースする。
- 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないようにする。
- 屋内塗装作業の場合は、自動塗装機、局所排気装置等により作業者のばく露が避けられる設備にすること。
- タンク内部等の密閉場所で作業をする場合には、密閉場所全体を十分に換気できる装置を取り付けること。
- 粉塵が積もらないような設備とすること。

呼吸系の保護具

- 有機ガス用防毒マスクを着用すること。
- 密閉された場所では送気マスクを着用すること。

手の保護具

- 有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用すること。

目の保護具

- 取り扱いには保護メガネを着用すること。

皮膚及び身体の保護具

- 取り扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

その他

- 静電塗装を行う場合は帯電防止服、通電靴を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	：液体
色	：淡黄色透明
臭い	：溶剤臭
沸点（℃）	：163
可燃性	：可燃
爆発限界(%)	：下限　0.6～上限　8.0
引火点（℃）	：47
自然発火点（℃）	：情報なし
分解温度（℃）	：情報なし
ｐＨ値	：情報なし

動粘性率（mm^2/s）　：情報なし
水に対する溶解度　：不溶
蒸気圧　(Pa(℃))　：1400
密度（23℃ g/cm^3）　：0.8
相対ガス密度　：情報なし
粒子特性　：情報なし
その他　：情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性　：情報なし
化学的安定性　：通常の取り扱いでは安定。
危険有害反応可能性　：情報なし
避けるべき条件　：高温
接触危険物質　：酸、アルカリ、水、酸化剤
危険有害な分解生成物　：情報なし
その他の有害性情報　：情報なし

11. 有害性情報

成分名：
ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ等
皮膚腐食性／皮膚刺激性　：区分２
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　：区分２
特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：区分３（気道刺激性,麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：区分２（肝臓、精巣）
誤えん有害性　：区分１

12. 環境影響情報

水性環境有害性以外の生態毒性　：情報なし
残留性･分解性　：情報なし
生体蓄積性　：情報なし
土壌中の移動性　：情報なし

	水性環境有害性		オゾン層への有害性
	短期（急性）	長期（慢性）	
ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ等	区分１	区分１	分類できない

漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。
特に、製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物
- 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。
- 廃塗料、廃溶剤、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をすること。
- 特別管理産業廃棄物に該当する。許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
- 容器、機器装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝にそのまま流さないこと。
- 固化した塗料、焼却物、排水も関係する法規にしたがって処理を行うか、委託すること。
- 環境に配慮し、空容器、包装等はリサイクルを推奨すること。

14. 輸送上の注意

国連番号　：1263
品目名　：塗料又は塗料関連物質(ペイント薄め液又は補修剤)
国連分類　：クラス３
副次危険性　：－
容器等級　：容器等級Ⅲ
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：
7.取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと
容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。
国内規制がある場合の規制情報
指針番号　：128
陸上輸送　：消防法、安衛法、毒劇法に該当する場合は、
それぞれの法律に定められる運搬方法に従うこと。
荷送り人は運送者に運搬注意書（イエローカード）を交付すること。

海上輸送　：船舶安全法、海洋汚染防止法の定めるところに従うこと。
航空輸送　：航空法の定めるところに従うこと。

15. 適用法令

消防法　：第４類引火性液体、第２石油類非水溶性液体、危険等級Ⅲ
労働安全衛生法：
名称等を通知すべき危険物及び有害物　：3.組成及び成分情報に記載
有機溶剤中毒予防規則　：第３種有機溶剤等
特定化学物質障害予防規則　：該当しない
がん原性物質　：該当しない
毒物及び劇物取締法　：該当しない
化学物質管理促進(PRTR)法　：該当しない

16. その他の情報

引用文献等：
JIS Z 7252:2019 GHS に基づく化学品の分類方法
JIS Z 7253:2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法−ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）
GHS 文書 改訂第 6 版（2015 年）の仮訳（経済産業省）
GHS 文書 改訂第 8 版（2019 年）の仮訳（経済産業省）
Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS)　6th revised edition　（UNECE）
Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS)　8th revised edition　（UNECE）
ＳＤＳ用物質データベース（塗料用）（（社）日本塗料工業会）
ＧＨＳ対応ＳＤＳ・ラベル作成ガイドブック〔混合物（塗料用）改定第 4 版〕（（社）日本塗料工業会）
職場のあんぜんサイト（厚生労働省）
NITE 統合版 GHS 分類結果（独立行政法人製品評価技術基盤機構）

注意
この安全データシートは、作成時、又は改定時において、製品及びその組成に関する最新の情報（危険有害性情報・取扱情報等）を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加・修正を行い改訂いたします。
また、この安全データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。
本製品を当社が認めた材料以外のものと混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行って下さい。

その他
・数千から数万の分子量をもつ高分子化合物で、分子中に有害な反応性官能基をもたないポリマーについては、健康有害性の区分を「区分に該当しない」として扱っている。
・労安法の通知対象物質に該当せず、NITE 統合版 GHS 分類結果のない物質は記載していない。
・この安全データシートは、製品毎にグループ化して作成している。グループ内でもっとも有害性の強いものを代表とするため、実際の製品より強い危険有害性区分を記載していることがある。